

## —学 会 録 事—

## 1. 日本藻類学会第9回大会

昭和60年3月28・29日の両日、東京学芸大学図書館A Vホールにおいて第9回大会を開催した。講演数52、参加者130名であった。

大会第1日目一般講演終了後、同ホールにおいて総会を開催し、引続き同大学第2むさしのホールで懇親会を行った。大島海一氏が司会し、小林大会々長の挨拶、西沢元会長の乾杯で始まり、約2時間盛會裡に閉会した。出席者は90名であった。

大会2日目に広瀬弘幸名誉会員の計報があり、千原会長がそのことを大会参加者に伝達し、最終講演のあと全員で黙禱をささげ、広瀬先生の御冥福を祈った。

大会開催に当り、東京学芸大学教育学部生物学教室の小林 弘教授、岡崎恵視助教授および、教室員と学生の諸氏には種々と御協力いただいた。また南雲 保氏（日本歯科大）、大島海一氏（日本大）も会の運営に御努力下さった。厚くお礼申し上げる。

## 2. 評議員会・編集委員会

第9回大会の前日、3月27日に東京学芸大学自然館会議室において、編集委員会（14：00～16：00）および評議員会（16：30～18：30）を開催し、昭和59年度総会に提出予定の報告事項・議題等の審議を行った。審議項目は総会報告に一括掲載してあるので、その項を参照されたい。

評議員会出席者：千原光雄会長、有賀祐勝、堀 輝三、市村輝宜、喜田和四郎、右田清治、月館潤一、山田家正、山岸高旺、吉田忠生各評議員、原 慶明、井上勲、加藤季夫、岡崎恵視各幹事。

編集委員会出席者：小林 弘編集委員長、有賀祐勝、堀 輝三、市村輝宜各実行委員、藪 潔、吉田忠生各委員、千原光雄会長、井上 勲、加藤季夫、岡崎恵視各幹事。

## 3. 昭和60年度総会

昭和60年3月28日、東京学芸大学図書館A Vホールにおいて、第9回大会1日目終了後、総会を開催した。千原光雄会長の挨拶に続いて、山岸高旺氏（日本大）を議長に選出して議事に入った。

## I. 報告事項

## 1. 庶務関係

(1) 会員状況（60年1月現在）：名誉会員4名、普

通会員522名、学生会員68名、団体会員46名、賛助会員13名、外国会員85名、購読・寄贈・交換99件。

(2) 昭和59年度文部省科学研究費補助金「研究成果刊行費」110万円を受けた。編集責任頁は272頁であった。また昭和60年度分として128万円の補助金申請を行った。編集責任頁は296頁である。(3) 日本学術会議会員候補者として千原光雄氏を選出し、岩本康三氏を推薦人とした。(4) 日本学会事務センターと業務委託の契約を更新し、委託内容の一部を変更した。(5) 第50回日本植物学会大会前日の10月1日に秋季シンポジウムを予定している。また日本藻類学会第10回大会は筑波大学で開催の予定である。

## 2. 会計関係

(1) 昭和60年度会費納入者は3月1日現在で約50%である。(2) 昭和59年度一般会計と山田基金特別会計の決算報告は昭和60年3月1日、斎藤英三（専修大）、吉崎 誠（東邦大）の両会計監事により適正であると承認された。

## 3. 編集関係

(1) 昭和59年度に発行した第32巻1～4号は総頁数395頁、掲載論文42編、短報4編、広告頁8頁である。(2) 昭和60年度第33巻1号は、掲載論文11編、第9回大会講演要旨を含め、101頁で発行した。同巻2号以降に掲載予定の論文は審査中・改筆中のものを含めて25編である。(3) 文部省科学研究費刊行助成金については庶務関係の項を参照。

## II. 審議事項

1. 昭和59年度一般会計決算報告と同監査報告は表-1のとおりで承認された。2. 昭和59年度山田幸男博士記念事業基金特別会計決算報告と同監査報告は表-2のとおりで承認された。3. 昭和60年度一般会計予算案（会費値上げ案を含む）（表-3）は審議の結果、承認された。予算案承認にともない、会費とバックナンバーその他の価格を表-4のように、昭和60年1月1日にさかのぼって改定することになった。4. 山田基金事業計画についてワーキンググループをつくり基金の運用方法も含めて具体案をつくることになった。5. 日本学会事務センターに業務委託をしていた別刷代徴収を、33巻2号より学会事務局が行うことになった。6. 昭和60年度から編集委員会が学会事務局から独立し、新たに実行委員会制度を発足させ、編集業務の円滑化を図ることが追

認された。7. 超過頁負担金を12,000円に改定した(現行10,000円)。8. 総説の制限頁数を和英文ともに10頁とした。9. 外国人会員勧誘のために新たに入会申込みカードを印刷作成し、これを学会負担の別刷50部に添えることになった。10. 60・61年度事業計画として、1) 第50回日本植物学会の前日(10月1日)に秋季シンポジウムと懇親会を開くこと、

および2) 61年度第10回大会を春季に筑波大学で行うことが承認された。11. その他、(1) 第3回国際藻類学会開催日本勧誘中止について(岩本康三前会長)、(2) アメリカ藻類学会作製藻類スライドフィルム頒布について(千原会長)、(3) 1986年ブラジル、サンパウロ大学で開催される国際海藻会議について(有賀祐勝会員)、それぞれ説明があった。

表-1 昭和59年度 一般会計決算報告 (59.1.1~69.12.31)

日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
会 費	2,864,752	印 刷 費	6,063,194
( 普 通 会 員	2,008,500	( 印 刷 代	5,227,284
学 生 会 員	136,500	別 刷 代	835,910
外 国 会 員	318,152	編 集 費	268,419
団 体 会 員	201,600	( 論 文 審 査 料	55,000
賛 助 会 員	200,000	英 文 校 閲 料	45,000
販 売	558,200	編 集 補 助 費	46,700
( 定 期 購 読	448,800	通 信 連 絡 費	121,719
バ ッ ク ナ ン バ ー	109,400	会 誌 発 送 費	276,690
別 刷 代	1,085,810	庶 務 費	590,438
超 過 負 担 金	1,242,300	( 事 務 用 品 費	4,785
広 告 代	180,000	会 議 費	27,050
利 子	5,144	通 信 ・ 印 刷 費	298,890
雑 収 入	213,358	事 務 整 理 補 助	49,000
刊 行 助 成 金	1,100,000	諸 雑 費	75,713
		幹 事 旅 費 補 助	60,000
		幹 事 手 当	75,000
		学 会 セ ン タ ー 業 務 委 託 費	646,490
		第 8 回 大 会 補 助	61,641
小 計	7,249,564	小 計	7,906,872
前年度繰越金	1,277,828	次年度繰越金	620,520
合 計	8,527,392	合 計	8,527,392

## 貸借対照表

59.12.31

借 方 (円)		貸 方 (円)	
預け金(センター)	940,883	借 入 金	1,042,755
普通貯金(三菱)	80,351	未 払 金	1,994,446
普通貯金(住友)	938,906	前 受 会 費	17,000
郵便振替	230,125	( 前 期 繰 越 金	1,277,828
小口現金	162,428	当 期 欠 損 金	△657,308
未 収 金	1,222,028	次 期 繰 越 金	620,520
仮 払 金	100,000		
合 計	3,674,721	合 計	3,674,721

昭和60年3月1日

本会計決算報告は適正であることを認める。

昭和60年3月1日

日本藻類学会長 岩 本 康 三 ㊤  
 日本藻類学会会計幹事 高 原 隆 明 ㊤  
 日本藻類学会会計監事 斉 藤 英 三 ㊤  
 日本藻類学会会計監事 吉 崎 誠 ㊤

表-2 昭和59年度 山田幸男博士記念事業特別基金会計決算報告 (59.1.1~59.12.31) 日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
山田追悼号売上金 (4冊)	22,000		
学会出版物売上金	15,800		
(コンプ論文集 (4冊)	2,800)		
(日米セミナー (4冊)	13,000)		
雑 収 入	0		
利 子	8,698		0
小 計	46,498	小 計	0
前年度繰越金	1,180,278	次年度繰越金	1,226,776
合 計	1,226,776	合 計	1,226,776

## 貸借対照表

借 方 (円)		貸 方 (円)	
普通貯金	175,907		
貸付金	1,042,755		
未収金	8,114		
		(前期繰越金	1,180,278)
		(当期繰越金	46,498)
		次期繰越金	1,226,776
合 計	1,226,776	合 計	1,226,776

昭和60年3月1日

本決算報告は適正であることを認める。

昭和60年3月1日

日本藻類学会会長 岩本 康三 ㊟

日本藻類学会会計幹事 高原 隆明 ㊟

日本藻類学会会計監事 斉藤 英三 ㊟

日本藻類学会会計監事 吉崎 誠 ㊟

表-3 昭和60年度 一般会計予算案

日本藻類学会

収 入 の 部 (円)		支 出 の 部 (円)	
会 費	4,872,000	印刷費	4,721,120
普通会員 (522)	3,290,000	印刷代	3,921,120
学生会員 (68)	300,000	別刷代	800,000
外国会員 (85)	510,000	編集費	400,000
団体会員 (46)	552,000	論文審査料	66,000
賛助会員 (13)	220,000	英文校閲料	60,000
販 売	1,101,000	編集補助費	100,000
定期購読	840,000	通信連絡費	174,000
バックナンバー	261,000	会誌発送費	250,000
別刷代	880,000	庶務費	655,000
超過頁負担金	240,000	事務用品費	50,000
広告代	200,000	会議費	50,000
預金利子	50,000	通信印刷費	240,000
プログラム代	17,000	事務整理補助費	90,000
刊行助成金	1,100,000	諸雑費	25,000
		幹事旅費補助	20,000
		幹事手当	180,000
		学会センター業務委託費	650,000
		大会補助費	100,000
小 計	8,460,000	小 計	6,776,120
前年度繰越金	620,520	予備費	2,304,400
合 計	9,080,520	合 計	9,080,520

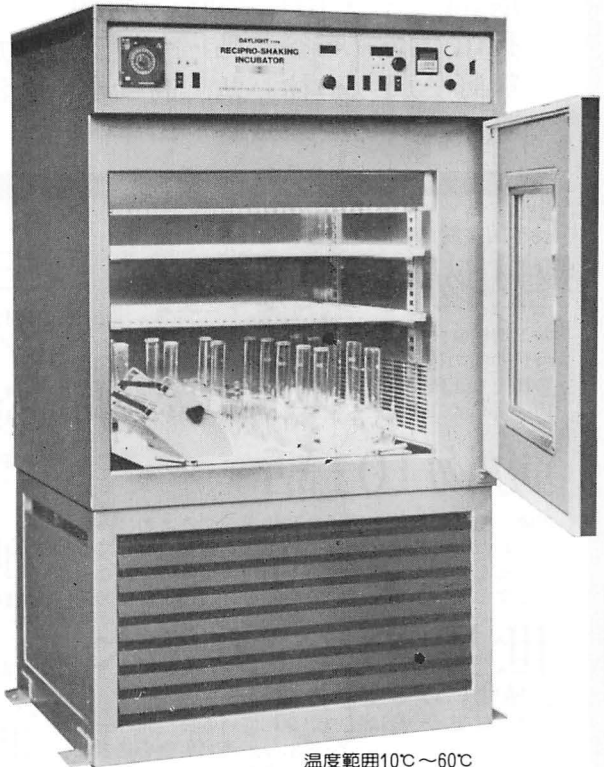
# デイライトタイプ レシプロシエーキング インキュベーター

光源として20W蛍光灯、プラントルクス等が10本取付け可能で、最大10,000ルクスの照度が得られ、スイッチにより半分の点灯も可能です。さらに、24時間タイマーと連動させて、最小15分から最大24時間まで自由な照射条件が作れます。

レシプロの振盪機構はつまみひとつで自由に速度が可変でき、回転数もデジタル表示します。振盪パネルはワンタッチで交換可能、オプションとして御要望に合せたどのようなパネルも作成いたします。

恒温機構も10℃から60℃の広帯域で使用でき、恒温振盪培養機としての使用はもちろんのこと、陽光恒温器としても使用でき、藻類の増殖試験等に最適です。長時間試験にも充分使用できるようデジタル設定の運転用タイマーを備え、経時後自動OFF、または自動ONが可能です。さらに高温防止器などの安全装置も装備していますので無人運転等多様な運転操作が安心して行えます。

※この外にも各種振盪培養機があります。カタログ御請求ください。



温度範囲10℃～60℃

## 仕様

外 法：W900×D780×H1,520mm

器内有効内法：W720×D650×H 520mm  
(ランプ無し 660mm)

振盪パネル：600×600mm(500ml坂口フラスコ25本掛、その他試験管、フラスコ、パネル等任意取付可)

振盪巾：70mm

振盪数：30～200R.P.M.(回転計付)

温度範囲：10℃～60℃

温度分布：±1℃ 温度精度：±0.5℃

安全装置：ヒーター断線・センサートラブル、異常高温を  
警報加熱・冷却装置 自動カット機構付

好評発売中

シートでみる種の同定・分類

## 淡水藻類写真集

*Photomicrographs of the Fresh-water Algae*

■藻類の全体像の顕微鏡写真を中心に、拡大写真、線図を加え1種1頁を原則に収録、解説は和英両文で種名・文献、藻類の性状、寸法、分布、類似種との比較等を記載している。各巻100シートで2000～3000種を目標に刊行する。

山岸高旺・秋山 優編集

B5判・各100シート・定価各4000円

1巻(発売中)・2巻(2月上旬)刊行

以下継続

# 日本淡水藻図鑑

B5判・960頁

口絵カラー8葉

定価 36,000円

ILLUSTRATIONS OF THE JAPANESE FRESH-WATER ALGAE

廣瀬弘幸・山岸高旺 編集

秋山 優・庵谷 晃・今堀宏三・加崎英男

熊野 茂・小林 弘・高橋永治・津村孝平 共著

平野 實・廣瀬弘幸・山岸高旺

日本図書館協会選定図書

## 生物学史展望

井上清恒著 五千年に渉る生物学の流れを追い、各時代の学の特質を浮彫にすると共に個別分野の発展の跡をも正確に跡付けてあり、研究者は生物学体系内の自己の立場を照らすことができる。A5・価4800円

## 動物101話

川崎 勉著 植物と同様に動物を愛する著者は、長年にわたって身近な動物達の生活を観察し続けてきた。そしてここに101種の動物達の生活の意外な一面を楽しく描き出している動物記。B6・価1300円

## 世界の珍草奇木

—植物にみる生命の神秘—

川崎 勉著 一般に見のがされている自然界の一部、植物の世界のめずらしい草木の生活、生態を見ると植物の持つ力づよい生命力に感銘を受け、改めて植物への興味をそそらせる。B6・価1300円

## 日本海藻誌

3・3判・価20000円

岡村金太郎著 海藻学の全般を精密克明な解説と実地調査で裏付けした不朽の名著。

## 藻類学総説

菊判・価10000円

廣瀬弘幸著 藻類の分類と形態を重点に置いて、克明な図により丁寧に解説する参考書。

## 植物組織学

B5判・価15000円

猪野俊平著 植物組織学の定義・内容・発達史から研究方法を幅広く詳述した唯一の書。

●前2著につづく

川崎 勉の

## 世界の珍草奇木余話

—植物と花と人生と—

B6・価1300円

## 動物雑話101

B6・価1300円

株式会社 内田老鶴園

〒102 東京都千代田区九段北1-2-1  
☎(03)265-3636 振替東京3-6371番

表-4 会費およびバックナンバー等販売価格の改定  
(昭和60年1月1日より)

会 費		
	(現 行)	(改定額)
普通会員	5,000円	7,000円
学生会員	3,500円	5,000円
団体会員	8,000円	12,000円
賛助会員	20,000円	20,000円
外国会員	6,000円	8,500円
販 売	8,000円	12,000円
藻類バックナンバー		
	(現 行)	(改定額)
会 員	1,250円	1,750円
	(3,750円)	(5,000円)
会 員 外	2,000円	3,000円
	(5,000円)	(7,000円)
( ) 内は30周年記念特集号第30巻4号		
山田幸男先生追悼号		
(現 行)	5,500円	(改定額) 7,000円

藻類索引		
1-10巻	(現 行)	(改定額)
会 員	1,000円	1,500円
会員外	1,500円	2,000円
11-20巻	(現 行)	(改定額)
会 員	1,500円	2,000円
会員外	2,000円	3,000円
30巻	(現 行)	(改定額)
会 員	2,500円	3,000円
会員外	3,000円	4,000円
日米科学セミナー記録		
(現 行)	3,000円	(改定額) 4,000円
北海道周辺のコンブ類と最近の増殖学的研究		
(現 行)	700円	(改定額) 1,000円

— 会 員 異 動 —  
新 入 会

## 住 所 変 更

## 交 換

在日本朝鮮人科学者協会

〒112 文京区白山 4-33-14 朝鮮出版会館内

03-816-4335

## 退 会

三浦和歌子（宮城県），宮崎方夫（茨城県），風呂田利夫（千葉県），山下貴司（東京都），宮里禧美子（兵庫県），大石忠義（広島県），Periodical Librarian of East Carolina Univ. (U. S. A.)，Allan Gluck (U. S. A)，S. C. Ducker (Australia)，

**日本学術会議第13期会員候補者ならびに  
推薦人の決定について**

日本学術会議法の一部改正と関連法令の改正があり、本学会はこの事態に対処するため、昭和59年12月1日に会長が候補者選出のための内規原案を作成し、これを全評議員に郵送して賛否を求めたところ、圧倒的多数により賛成が得られたので、12月21日一部字句修正

の上、以下の内規を定めた。

日本学術会議会員候補者および推薦人を選出する内規（昭和59年12月21日制定）

本学会における学術会議の植物科学会員候補者を選定する方式を次の通り定める。

1. 全評議員による2名連記の投票により会員候補者の選挙を行う。
2. 会長は選挙の結果を尊重して、学術会議にふさ

わしい者を学術会議会員の候補者に決定する。

本学会における学術会議会員推薦人を選出する方式を次の通り定める。

1. 推薦人は会長が決定する。

附記、この内規は会長が評議員会の議を経て変更することができる。

上記の内規に従い、新評議員による日本学術会議会員候補者の選出のための投票を1月25日から2月12日にかけて行い、2月14日に開票した。その結果、下記の方が候補者に決定した。

千原光雄

なお、推薦人は、内規により次の方に決定した。

岩本康三

推薦人は、5月20—23日に開催の会議に出席し、植物科学研究連絡委員会分野の他の学会の推薦人と協議して会員および会員補欠各1名を決定することになっている。植物科学研究連絡委員会分野の他の学会は、日本植物学会、日本植物生理学会、日本植物分類学会、植物分類地理学会である。なお、日本学術会議第13期会員の任期は、昭和60年7月19日より3年間である。

本学会員岡田喜一氏は去る昭和59年11月6日逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

日本藻類学会

本学会名譽会員広瀬弘幸氏は去る昭和60年3月28日逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

日本藻類学会

本学会員川端清策氏は去る昭和60年4月11日逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

日本藻類学会